

多くの人(約3,000人)が集った

かものフェスティバル2025

8月2日(土)第3回となる「かものフェスティバル」が行われました。当日は朝から青空が広がり午前7時から正副自治会長さんが中心となり盆踊りの櫓、テント、椅子の準備等を行いました。

午後3時から、中学生のボランティア、ボーイスカウト、自治会婦人部、民生児童委員、天舞道(あまち)の皆さんが天乳池の周りに「ナイトあまち」のカップを取り付ける作業に汗を流しました。

また、消防団第5分団、加茂野小学校PTA、スポーツ少年団、民生児童委員、交通安全協会加茂野分会の皆さんもそれぞれに準備が整い、午後5時の開会を待つばかりとなりました。



キッズタイムで踊る子どもたち



「郡上踊り白鳥踊り」の生演奏生歌



ナイトあまちでのオカリナ演奏

昨年、一昨年は、「コンサート」「盆踊り」「ナイトあまち」を行う予定でしたが、途中から突然のゲリラ雷雨となり、急遽、交流センター内に会場を移して「コンサート」の続きと「盆踊り」を行い、「ナイトあまち」は中止となりました。今年は、「盆踊り」と「ナイトあまち」の2本立てで実施しました。天候に恵まれ、予定の午後9時まで屋外で実施でき多くの来場者がありました。

盆踊りの櫓は購入してから7年を過ぎていますが、今年初めて使うことができました。午後6時からの1時間は郡上踊りと白鳥踊りを生演奏生歌で実施し、午後7時10分からの20分間は、盆踊りのキッズタイムがあり、多くの小学生以下の子どもたちが参加しました。また、盆踊りの合間には、鳴子踊りの「天舞道」が息の合った舞を披露し、多くの参加者を魅了しました。一方、天乳池の周りでは、子どもたちが絵を描いたカップ2000個のライトアップ「ナイトあまち」に加え、オカリナ演奏も相まって幻想的な世界をつくりあげました。

午後8時30分からの音源による盆踊りにも大人から子どもまで多くの参加者があり、午後9時の閉会まで盛り上がりました。ナイトあまちのカップは、朝まで点灯しました。閉会後も池の周りを散策する姿がありました。

約3,000人が集ったかものフェスティバルは大盛況のうちに終えることができました。最後になりますが、企画・運営に関わった関係者の皆様、協力金をいただいた町内の自治会会員の皆様方に感謝申し上げます。

